

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 8 月 8 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	瀧 雄渡

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本国、愛知県
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
PWS 動物園・博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 7 月 7 日 ~ 平成 30 年 7 月 9 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター、新宅勇太先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、日本モンキーセンターにおいて動物園及び博物館としての動物園における動物の飼育、資料の保存、研究、教育について学んだ。 7 月 7 日：日本の霊長類学と日本モンキーセンターの成り立ちに関する講義を受けたあと、ネズミの解剖を見学し、骨格標本の整理を行った。 7 月 8 日：ゴリラの飼育施設の清掃、及びチンパンジーのフィーダーの製作を行い、動物の飼育、環境エンリッチメントについて学んだ。その後、来園者調査を行い、動物園における教育について学んだ。フィーダーは竹を使って作製したが、山で竹を切り出すところから始めたのには驚いた。 7 月 9 日：ニホンザルの避妊手術を見学したあと、動物園における展示方法に関する講義を受けながら園内を見てまわった。また、大雨により一部の建物が浸水していたため、水かき作業を行った。 この機会を得て、動物園のキュレーターや飼育員、職員がどのような思いで、実際にどういった仕事を行っているのかを学ぶことができた。園には想像していなかったような多種多様な仕事があり、この実習がなければそれらを理解することは難しかっただろう。 この経験は、将来動物園と協力して研究を行う際に、大いに役に立つことと思う。

図 1：チンパンジーの親子
6. その他 (特記事項など)
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org